

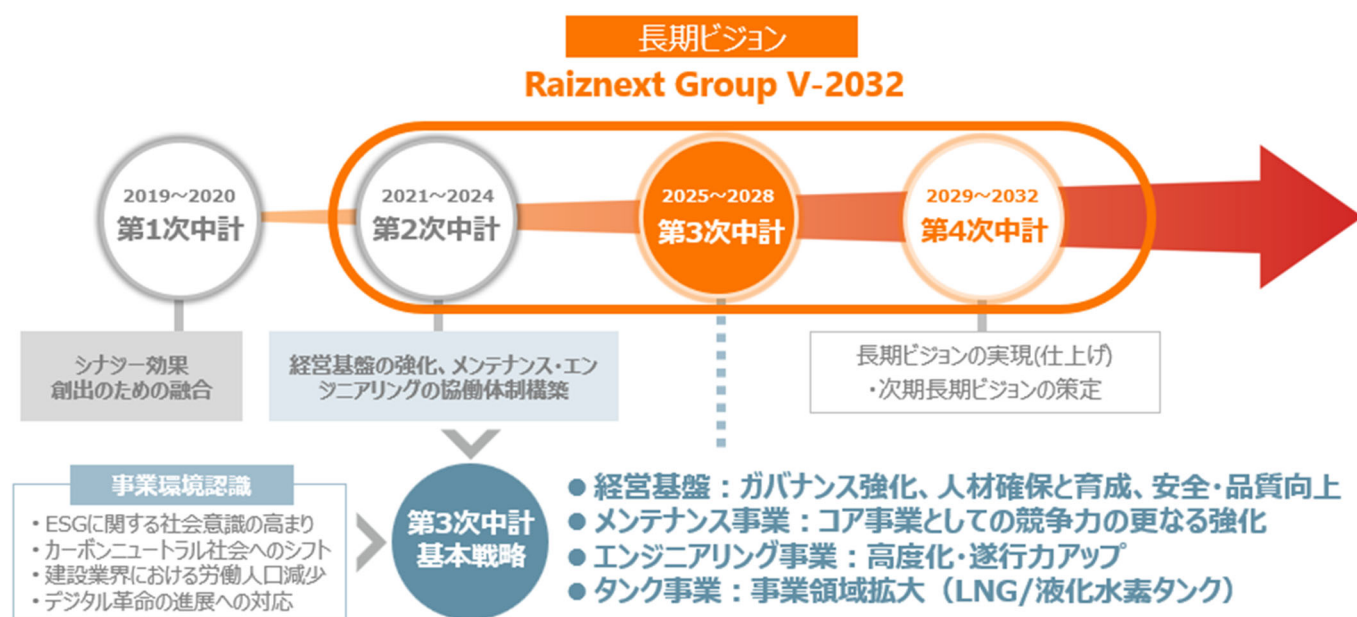
各位

会 社 名 レイズネクスト株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 毛利 照彦
 (コード番号 6379 東証プライム市場)
 問 合 せ 先 経営企画部長 山本 宏成
 (TEL045-415-1500)

第 3 次中期経営計画の策定について

当社は、このほど「第 3 次中期経営計画－RAIZNEXT X CHALLENGE」(2025 年度から 2028 年度まで)を策定いたしましたのでお知らせいたします。

当社グループは 2021 年 3 月に、「2032 年度(第 4 次中期経営計画の最終年度)までに当社グループがやりたい姿」を描いた長期ビジョンとして「RAIZNEXT Group V-2032」を策定いたしました。第 3 次中期経営計画は、長期ビジョン達成のため第 2 次中期経営計画で構築した基盤・体制をもとに、更にチャレンジしていく期間と位置付け、策定しております。



長期ビジョン達成のため第2次中計で構築した基盤・体制をもとに更にチャレンジが必要

1. 策定方針

第 3 次中期経営計画は、カーボンニュートラル社会に向けた取り組みやデジタル革命の進展などの事業環境の大きな変化に対応し、当社が持続的な成長を実現するための方針であります。

計画期間は、2025 年度～2028 年度までとし、長期ビジョン実現の総仕上げとなる第 4 次中期経営計画に向け、「RAIZNEXT X CHALLENGE」をテーマとし、従来のやり方にとらわれず、あらゆる変革に挑戦する期間と位置付けております。

事業戦略の項目は、第 1 次中期経営計画から継続して活動効果を最大限に発現させるため、経営基盤の強化を基礎とした各事業戦略(メンテナンス事業の強化、エンジニアリング事業の強化、タンク事業の強化)とします。

2. テーマ



第3次中期経営計画では、持続的な成長と企業価値の向上を目指して、カーボンニュートラル社会実現に貢献するための事業変革、デジタルを活用した業務プロセスの変革など、従来のやり方にとらわれず、あらゆる変革（X:トランスフォーメーション）に挑戦していくことをテーマに掲げております。

3. 経営数値目標

第3次中期経営計画の最終年度である2028年度（2029年3月期）において、連結完成工事高 1,710 億円を目指します。また、自己資本当期純利益率（ROE）を重要な経営指標として、自己資本当期純利益率（ROE）9.5%以上を目標としております。

配当については、経営の最重要課題と位置付け、収益に即した継続的かつ安定的な配当を実施することに留意し、60%以上の連結配当性向を目標としております。

① 【業績計画】

第3次中期経営計画 最終年度（2028年度 2029年3月期）業績目標

< 連結 >		(単位：億円)	
		2028年度 (2029年3月期)	
完成工事高		1,710	
営業利益		136	
親会社株主に帰属する 当期純利益		93	

② 【経営指標の目標値】

自己資本当期純利益率（ROE）	9.5%以上
連結配当性向	60%以上

以 上

第3次中期経営計画（2025年度～2028年度）

2025年5月14日

レイズネクスト株式会社

代表取締役社長 毛利 照彦

第2次中期経営計画の成果

業績関連目標は全て達成、ROE、連結配当性向はいずれも目標達成

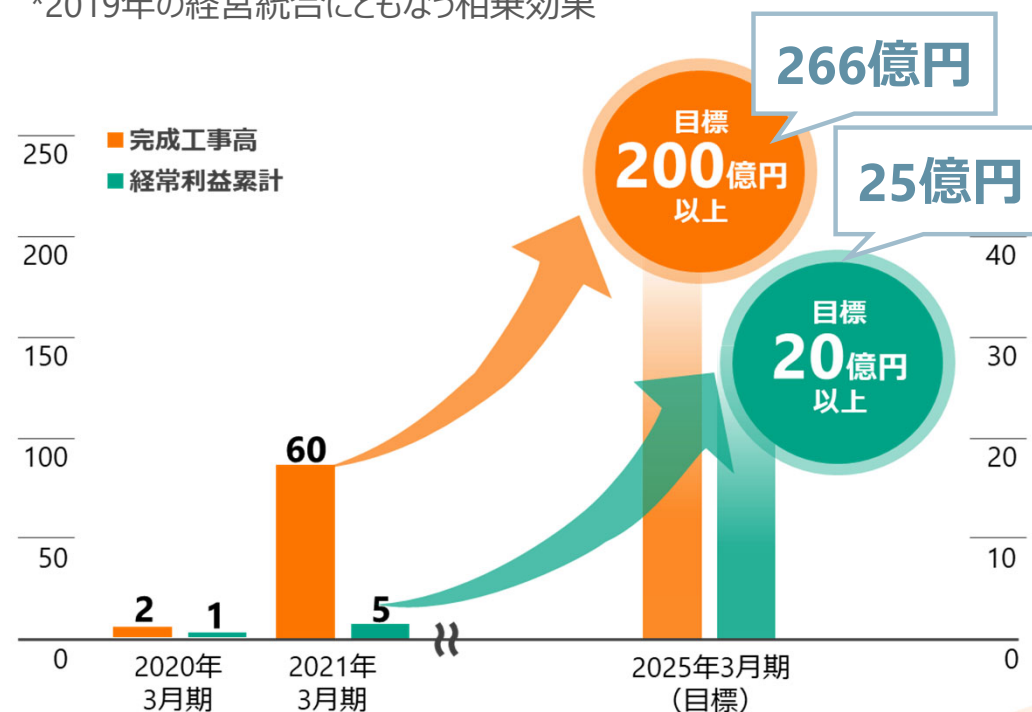
2024年度連結(2025年3月期)

(億円)	第2次中計目標	実績
完成工事高	1,450	1,573
営業利益	105	108
当期純利益	70	81
ROE	8.0%	9.6%
配当性向	40%以上	60%

経営統合によるシナジー効果

第2次中計テーマ「シナジー効果*創出 20億円」目標達成

*2019年の経営統合にともなう相乗効果



第2次中期経営計画の振り返り

取組みの成果



経営基盤の強化

- ・コーポレートガバナンス・リスクマネジメント体制の整備、安全・品質管理体制の高度化
- ・サステナビリティ経営の推進体制の整備
- ・働き方改革に向けた制度、インフラ整備



メンテナンス事業の強化

- ・事業部統合による人員配置の適正化
- ・協力会社を含めた技能者育成や施工体制の強化
- ・安全性向上、効率化に向けた施工作業の自動化、機械化の推進



エンジニアリング事業の強化

- ・カーボンニュートラル(CN)社会に向けた新規分野の受注
- ・設備計画や検討段階からの積極的参入
- ・化学・半導体・非鉄金属分野での受注拡大



タンク事業の強化

- ・全国事業所ネットワークを活かした受注拡大
- ・生産性向上に向けた自動溶接技術の導入
- ・CN案件(低温タンク)分野への進出準備

今後の取組み

▶各体制やインフラの適切な運用と強化

社会から信頼・評価される会社を目指し、ガバナンス強化、人材確保と育成、安全・品質の向上に努める。

▶メンテナンスの高度化

コア事業としての競争力を一層強化するべく、労働生産性向上を目指し、リソース管理の高度化、更なる機械化・自動化を加速する。

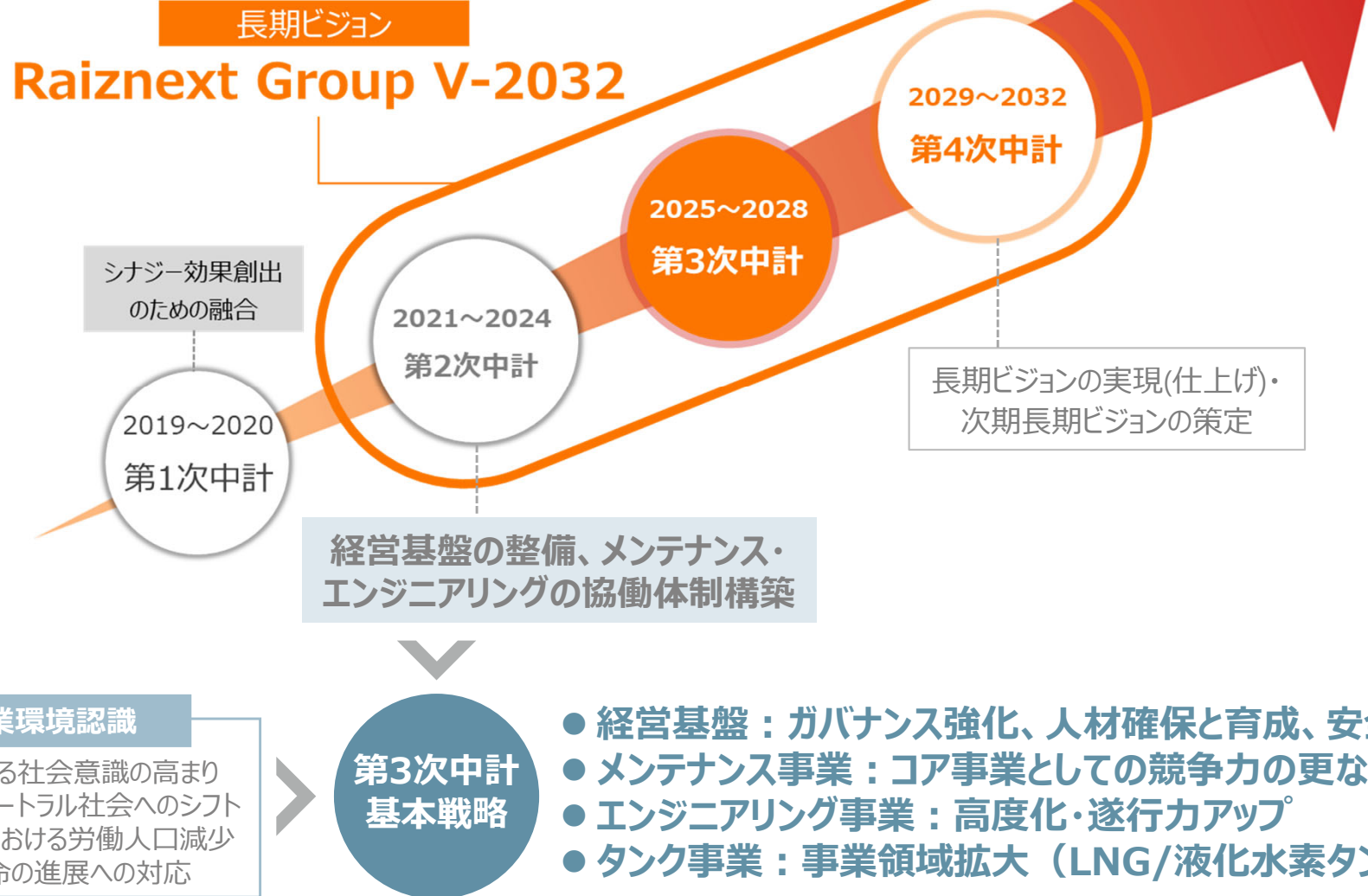
▶エンジニアリングの高度化・遂行力アップ

GX推進に伴う設備投資拡大に対応すべく、DX推進によるエンジニアリングの高度化・遂行力強化を目指す。

▶CN案件受注体制の確立

水素社会の到来に備え、低温タンク分野への進出を目指すとともに、検査ロボットの開発など自動化の推進を行う。

第3次中期経営計画の基本戦略



長期ビジョン達成のため第2次中計で構築した基盤・体制をもとに更にチャレンジが必要

第3次中期経営計画のテーマ



第3次中期経営計画では、持続的な成長と企業価値の向上を目指して、カーボンニュートラル社会実現に貢献するための事業変革、デジタルを活用した業務プロセスの変革など、従来のやり方にとらわれず、あらゆる変革（X:トランスフォーメーション）に挑戦していく。

第3次中期経営計画の取組み

各事業の トランスフォーメーション



メンテナンス事業の“X”

● メンテナンスのDX推進

- 施工作業の更なる機械化/自動化による安全性向上、省力化、効率化
- 次世代メンテナンス技術の開発/導入
- 施工管理業務の高度化



エンジニアリング事業の“X”

● エンジニアリングのDX推進

- 3D設計/AI設計推進、BIM/CIM構築
- 先進的プロジェクト管理システム導入
- 高度な解析ソリューション



タンク事業の“X”

● GXへの挑戦

- 低温タンク(LNG/液化水素)分野での受注体制構築
- 製作/検査のロボット化
- 自動溶接の現場実装



経営基盤の“X”

● DXによる業務プロセス改革

- 安全/品質管理の高度化
- 業務改革の推進
- データドリブン経営

● 人的資本投資の加速

- 人材の育成
- 健康経営の促進
- 新しい働き方の推進

第3次中期経営計画経営数値目標

2028年度 (2029年3月期)		
業績目標	売上高	1,710 億円
	営業利益	136 億円
	当期純利益	93 億円
経営指標の 目標値	ROE	9.5 %以上
	配当性向	60 %以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

2024年度までの取り組み

収益性の向上

- 全国ネットワークを活かした受注拡大
- 事業部統合や体制見直しによるリソース活用の効率化

資本効率の向上

- 賃貸不動産・遊休不動産の売却完了
- 政策保有株式の売却の進展
25年3月末投資有価証券
- 対純資産比率5.5%
- 2019年当社発足時より簿価ベース6億円縮減

株主還元の充実

- 配当方針を配当性向60%以上に変更
- 5周年記念の特別配当実施

IR活動の強化

- 日経IR・個人投資家フェア2024に出展
- 個人投資家向けセミナー参加（計2回）
- 発行体格付『A－』を取得

長期的にROE10%以上を目指すために4つの施策を継続実施

収益性の向上

- Xチャレンジ施策の確実な実行
- DX推進による施工管理、設計技術の高度化・効率化
- データドリブン経営へのシフト

資本効率の向上

- 2028年度(第3次中計最終) ROE目標9.5%とし長期的に10%を目指す
(第2次中計目標8%から引上)

株主還元の充実

- 配当性向60%以上を維持
- 株主優待の導入（本日発表）

IR活動の強化

- 個人投資家向けIRの拡充
- 情報発信のタイミングと頻度適正化による対話促進



レイズネクスト株式会社

本資料中の経営方針、戦略、将来の見通しに関する数値につきましては、現時点で入手可能な情報から当社経営陣の判断に基づいて作成されております。この中にはリスクや不確定な要因も含まれており、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、顧客動向等により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。